

令和三年度 入学式 式 辞

春の柔らかな陽射しが降り注ぎ、生きとし生けるものすべてが躍動を始める四月。ここに前橋育英高等学校第五十九回入学式を挙行できますことは、私たち関係者にとりまして、この上ない喜びであり、心より御礼申し上げます。また、お子様をここまで見守り、支えてこられました保護者の皆様には、心からお祝い申し上げます。

ただ今、入学を許可しました481名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、高校への進学を目指し、昨年からのコロナ禍という不安な中、努力を積み重ね、入学試験という試練を乗り越え、晴れて本日を迎えられました。これまでの努力に敬意を表しますとともに、教職員一同、入学を心から祝福し歓迎します。

本校は、皆さんもご存じのように硬式野球部や男子サッカー部の全国制覇を始めとするスポーツ校として、学習面においても難関国公立大学への進学実績を出している高校として知られております。また、約二万五千人を超える卒業生は、今日県内はもとより全国、世界と様々な地域・分野で活躍しております。

さて、本校は、公立校の校訓と違い私立校なので建学の精神があります。本校の存在理由であり、願いであり、看板とも言える建学の精神「正直・純潔・無私・愛」について、話したいと思います。本校は、1963年に現学園長中村有三先生により創立されました。当時の日本社会は、まさに高度経済成長期を迎えており、本校開校の翌年には、一回目の東京オリンピックが開催されています。日本はまさに戦後を脱却し、経済発展により、物質面において豊かな国となりました。

しかし、生活が豊かになる中で「物足りて心減ぶ」といった警鐘も鳴らされました。物欲に満たされ始める中で、道徳心の喪失を悲観した中村有三先生は、次のように語っています。「これから迎える新しい時代が、どんな時代であっても本校の目指す学校とは、建学の精神『正直・純潔・無私・愛』を踏まえて、広い視野と高い志、道義心と行動力を兼ね備えた人間性豊かな人材の育成にある」と。さらに「正直に、純潔に、無私に、そして愛をもって接するとき、総ての門は開かれる。全人類がその精神で手を握り合えば、地球上から争いが消滅する。来たるべき世紀を担う若者たちに、そのことを伝え、教えることこそ教育者の使命である。」と崇高な理想を持って開校しました。どうか皆さん、前橋育英高校の生徒として、この建学の精神を忘れずに、様々な活動に積極的・意欲的に取り組み、充実した高校生活を送ることを期待します。

そこで高校生活を始めるに当たり、ぜひ心掛けて欲しいこととお話しします。それは、「自ら学ぶ姿勢を持つ」ということです。高校生となった皆さんは、これまでの義務教育と違い、自らの意志で高校進学を決めました。高校は、学業成績や出欠席といった基本的な生活習慣の総合評価で進級や卒業が決まります。それだけに本校に入学しただけで思い通りの学力が付き、部活動の技量が上がることが約束されたわけではありません。大切なことは、皆さん自身が、目の前のやるべきことを自分のこととして捉え、主体的な姿勢で自分を高めていくことであり、「やらされる」のではなく「進んでやる」という姿勢が、進路の実現や部活動の成果にきつとつながります。高校三年間は可能性に満ちあふれた時代であり、将来への様々な選択肢が用意されています。是非とも「自ら学ぶ姿勢を持つ」ことで自分の夢や目標を自分の力でつかみ取るよう頑張ってください。

結びに、保護者の皆様にご挨拶申し上げます。本日から三年間、本校の生徒としてお子様をお預かりし、全職員で教育をして参ります。しかし、教育は、家庭、学校が一体となり、お互いが協力し合うことで成果が上がると考えます。どうか、本校の教育方針をご理解いただき、ご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新入生の皆さんの高校生活が充実したものになりますよう祈念し、式辞の挨拶といたします。

令和3年4月8日
学校法人 群馬育英学園
前橋育英高等学校
校長 金子 雅人